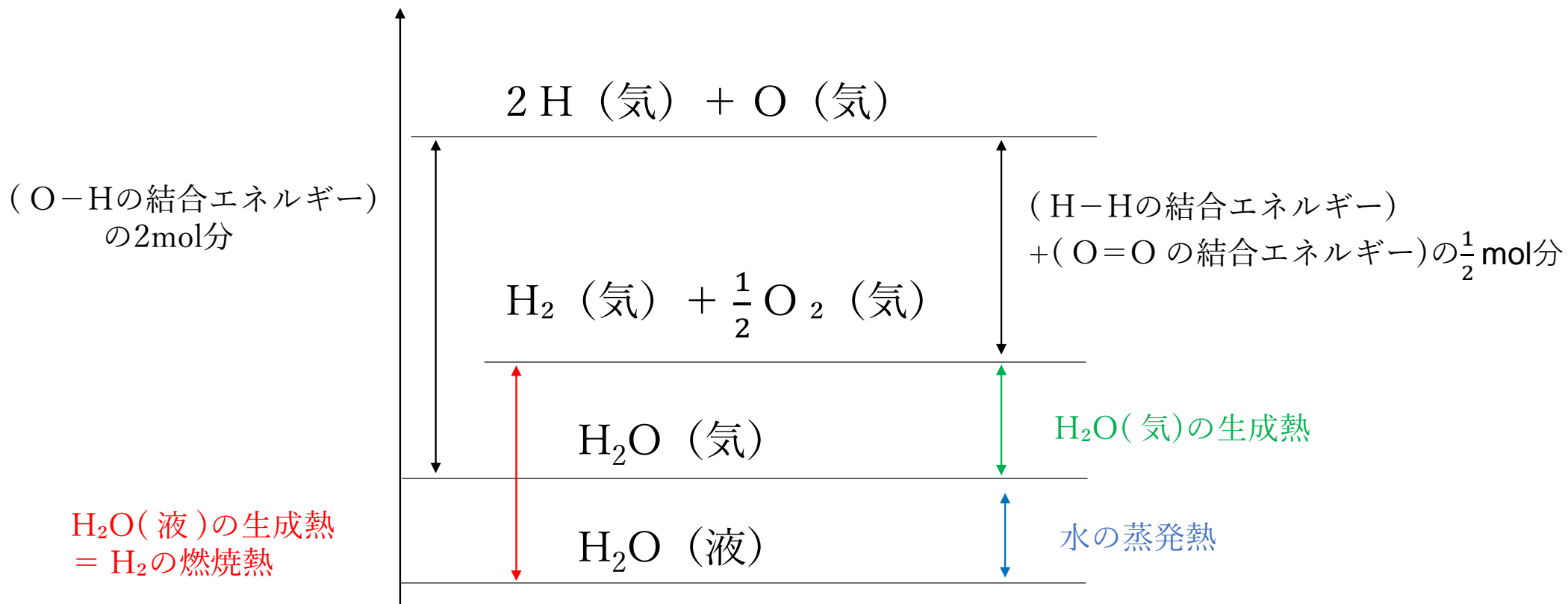
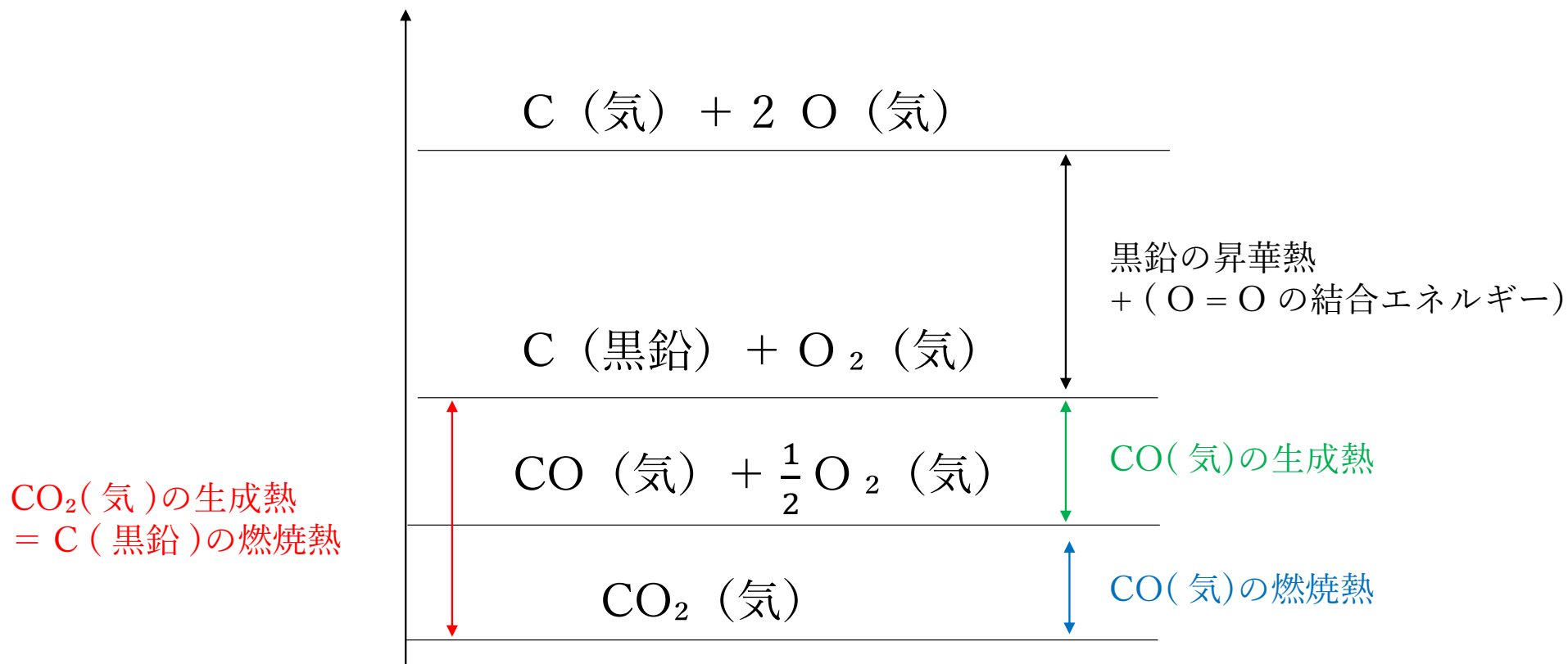


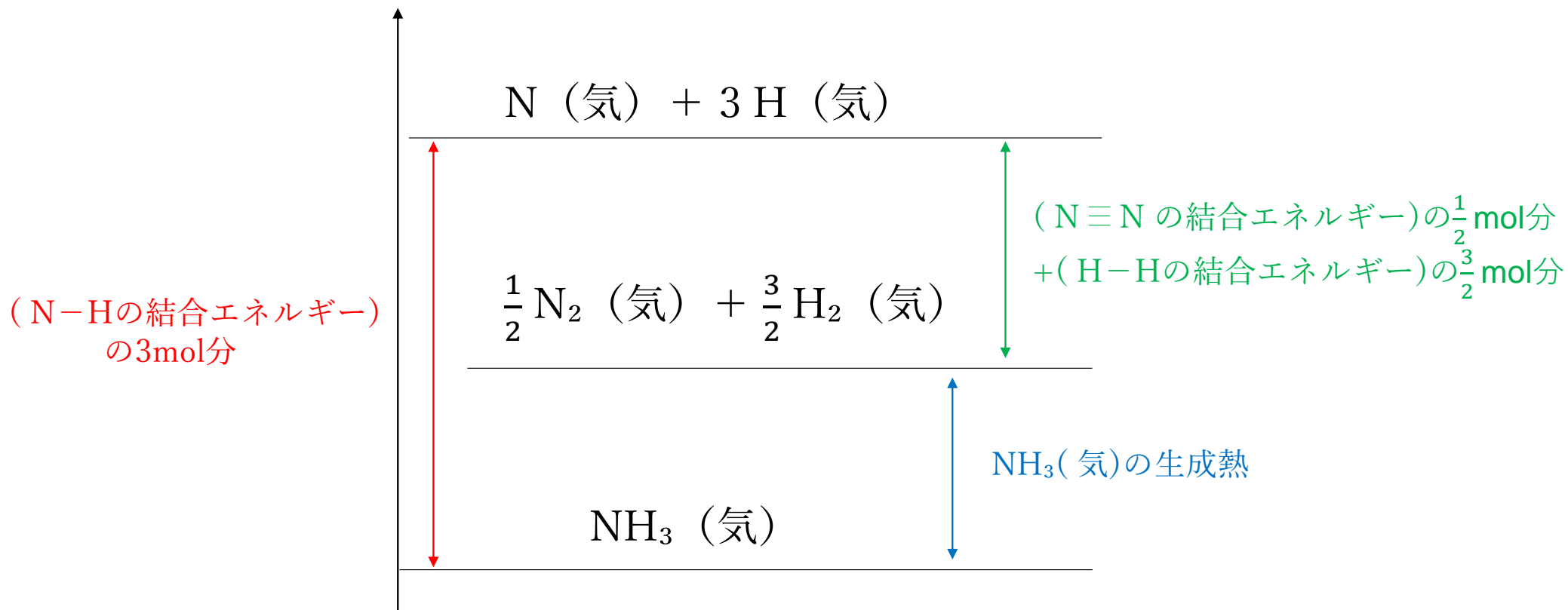
H<sub>2</sub>Oのエネルギー図



CO<sub>2</sub>のエネルギー図



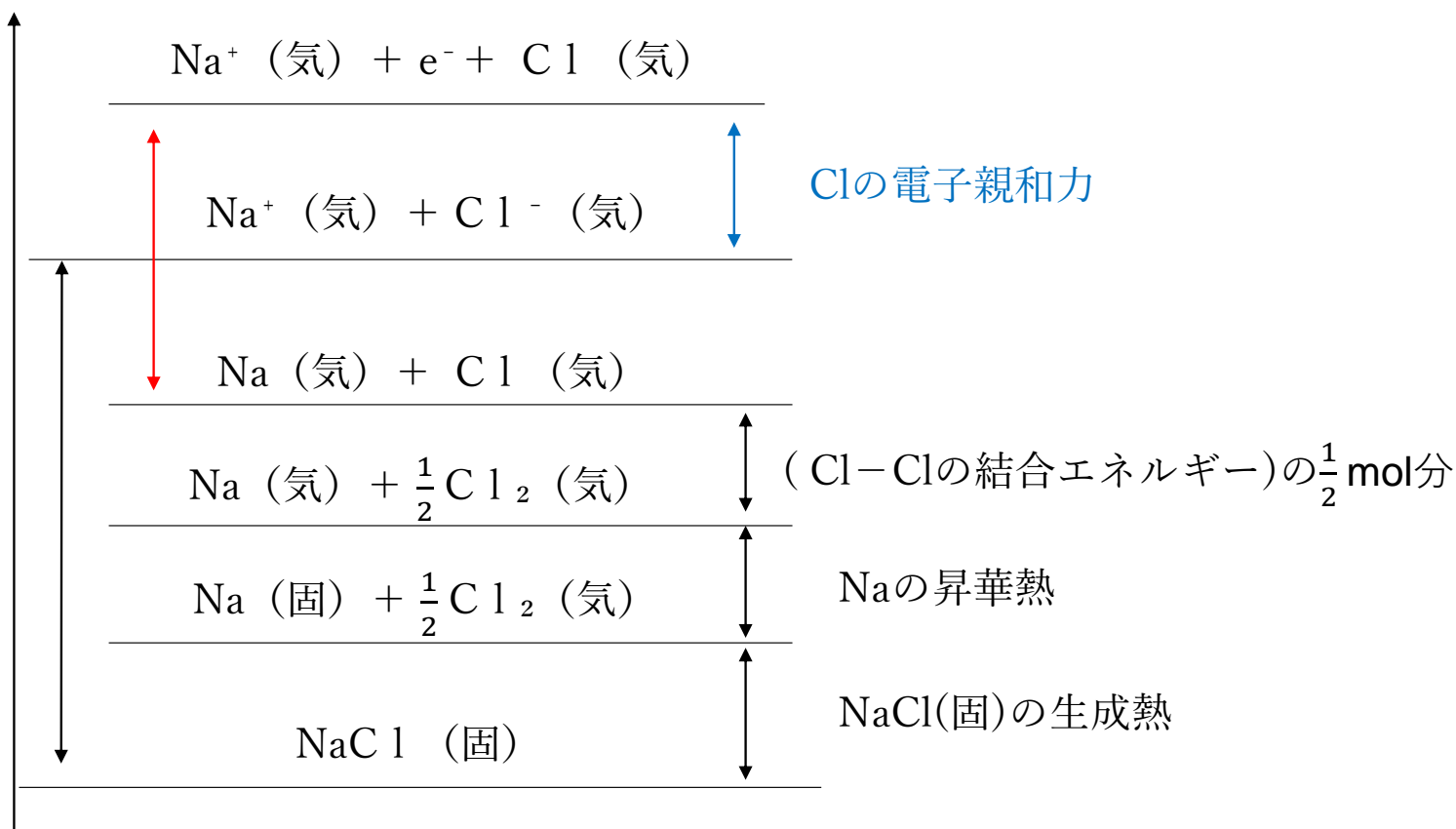
NH<sub>3</sub>のエネルギー図

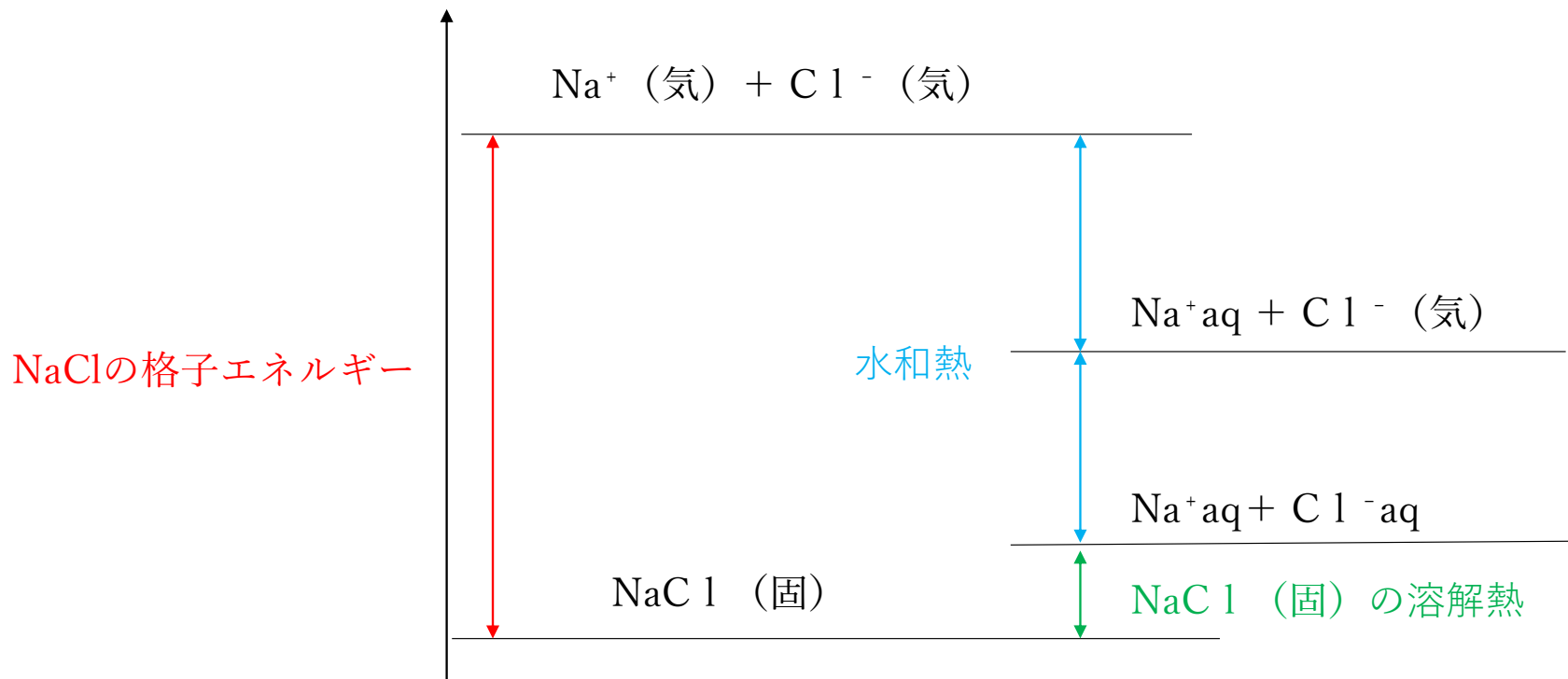


NaClの格子エネルギー

Naのイオン化エネルギー

NaClの格子エネルギー





格子エネルギー > 水和熱 → 溶解熱 吸熱

格子エネルギー < 水和熱 → 溶解熱 発熱

解答に必要があれば、以下の値を用いなさい。

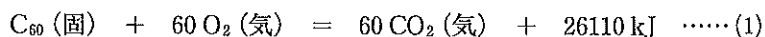
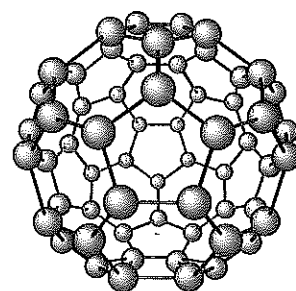
原子量：H = 1.0, C = 12.0, N = 14.0, O = 16.0, Na = 23.0, S = 32.1, Cl = 35.5, K = 39.1, Ti = 47.9,

Fe = 55.9, 気体定数： $R = 8.31 \times 10^3 \text{ L} \cdot \text{Pa}/(\text{mol} \cdot \text{K})$ , アボガドロ定数： $N_A = 6.02 \times 10^{23}/\text{mol}$ ,

$\sqrt{2} = 1.41$ ,  $\sqrt{3} = 1.73$ ,  $\sqrt{5} = 2.24$

2 つぎの文を読み、以下の各問いに答えなさい。ただし、燃焼熱、昇華熱は  $25^{\circ}\text{C}$ 、 $1.01 \times 10^5 \text{ Pa}$  のときの値である。

ダイヤモンドや黒鉛は、炭素の同素体としてよく知られている。近年、 と呼ばれる新たな炭素の同素体が発見され、その燃焼熱が測定された。代表的な  である  $\text{C}_{60}$  分子は、右図に示すようなサッカーボール型の構造をとっており、その燃焼は、つぎの熱化学方程式(1)で表される。



ここで、ダイヤモンドの燃焼熱は  $396 \text{ kJ/mol}$ 、黒鉛の燃焼熱は  $394 \text{ kJ/mol}$  であるので、黒鉛から  $\text{C}_{60}$  をつくる反応を表す熱化学方程式は  となる。また、1モルの炭素原子に含まれる化学エネルギーの絶対値は、 $\text{C}_{60}$  とダイヤモンドで   $\text{kJ}$  異なっていることがわかる。

また、炭素(黒鉛)の昇華は、つぎの熱化学方程式(2)で表される。



以上のことより、ダイヤモンドの C-C 原子間の結合エネルギーは、  $\text{kJ/mol}$  と求められる。

問1 空欄  に当てはまる最も適切な語句をカタカナで解答欄に書きなさい。

問2 空欄  に当てはまる熱化学方程式を解答欄に書きなさい。

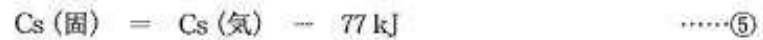
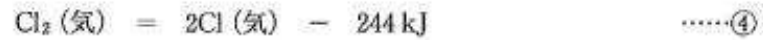
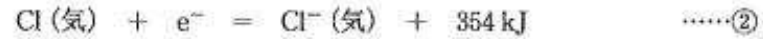
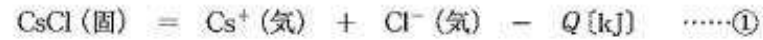
問3 空欄  に当てはまる最も適切な値を a～f の中から一つ選び、解答欄の記号にマークしなさい。

a. 2      b. 39      c. 2074      d. 2076      e. 2468      f. 25714

問4 空欄  に当てはまる最も適切な値を a～f の中から一つ選び、解答欄の記号にマークしなさい。

a. 198      b. 358      c. 394      d. 396      e. 718      f. 26110

問3 イオン結晶1 molを、気体状態のばらばらのイオンにするのに必要なエネルギーを格子エネルギーという。塩化セシウムの格子エネルギー  $Q$  は熱化学方程式①で表され、熱化学方程式②～⑥を用いて求めることができる。



次の(1),(2)に答えなさい。

(1) Cs (気) と Cl (気) から 1 mol の CsCl (固) を得るとき、反応熱は何 kJ/mol か。次の中から最も適切なものを一つ選んで、解答欄の記号にマークしなさい。

- A. 257 kJ/mol の発熱      B. 655 kJ/mol の発熱      C. 777 kJ/mol の発熱  
D. 257 kJ/mol の吸熱      E. 655 kJ/mol の吸熱      F. 777 kJ/mol の吸熱

(2) 塩化セシウムの格子エネルギーは何 kJ/mol か。次の中から最も適切なものを一つ選んで、解答欄の記号にマークしなさい。

- A. 278 kJ/mol      B. 634 kJ/mol      C. 676 kJ/mol      D. 756 kJ/mol  
E. 798 kJ/mol



2

酸と塩基とが中和反応して水 1 mol が生成するときの反応熱を一般に中和熱という。強酸の希薄水溶液を強塩基の希薄水溶液で中和して塩の希薄水溶液が得られる場合、その中和熱は酸と塩基の種類によらず一定の値 56.5 kJ/mol となる。一方、弱酸や弱塩基が関わる中和反応の中和熱はこの値からずれる。この値と、表 1 および表 2 に示した物質の生成熱と溶解熱の値を用いて、以下の各問いに答えなさい。ただし、溶液はすべて希薄水溶液とし、表 2 のアンモニアの水への溶解熱は、アンモニアが電離していないときのものである。

表 1 いくつかの物質の生成熱

物質	生成熱 [kJ/mol]
HCl (気)	92.3
NaOH (固)	425.6
NaCl (固)	411.1
H <sub>2</sub> O (液)	285.8
NH <sub>3</sub> (気)	45.9
NH <sub>4</sub> Cl (固)	313.4

表 2 いくつかの物質の水への溶解熱

物質	溶解熱 [kJ/mol]
HCl (気)	74.9
NaCl (固)	-3.9
NH <sub>3</sub> (気)	34.2
NH <sub>4</sub> Cl (固)	-14.8

問1 下線部 (a) で述べた強酸の希薄水溶液と強塩基の希薄水溶液の中和反応に共通な熱化学方程式を、解答欄に書きなさい。

問2 固体の水酸化ナトリウム 1 mol を希塩酸で直接中和すると、その反応熱は何 kJ の発熱あるいは吸熱となるか。次の中から最も近いものを一つ選んで、解答欄の記号にマークしなさい。

- A. 25 kJ の発熱      B. 50 kJ の発熱      C. 75 kJ の発熱      D. 100 kJ の発熱  
E. 25 kJ の吸熱      F. 50 kJ の吸熱      G. 75 kJ の吸熱      H. 100 kJ の吸熱

問3 固体の水酸化ナトリウム 1 mol を大量の水に溶かすと、その反応熱は何 kJ の発熱あるいは吸熱となるか。次の中から最も近いものを一つ選んで、解答欄の記号にマークしなさい。

- A. 5 kJ の発熱      B. 20 kJ の発熱      C. 30 kJ の発熱      D. 45 kJ の発熱  
E. 5 kJ の吸熱      F. 20 kJ の吸熱      G. 30 kJ の吸熱      H. 45 kJ の吸熱

問4 アンモニア1 mol を溶かしたアンモニア水を希塩酸で中和すると、その反応熱は何 kJ の発熱あるいは吸熱となるか。次の中から最も近いものを一つ選んで、解答欄の記号にマークしなさい。ただし、アンモニア水中のアンモニアは電離していないものとする。

- A. 25 kJ の発熱      B. 50 kJ の発熱      C. 75 kJ の発熱      D. 100 kJ の発熱  
E. 25 kJ の吸熱      F. 50 kJ の吸熱      G. 75 kJ の吸熱      H. 100 kJ の吸熱

問5 水溶液中でアンモニア1 mol が、水分子と反応してアンモニウムイオンと水酸化物イオンとに電離したとすると、その反応熱は何 kJ の発熱あるいは吸熱となるか。次の中から最も近いものを一つ選んで、解答欄の記号にマークしなさい。

- A. 5 kJ の発熱      B. 20 kJ の発熱      C. 30 kJ の発熱      D. 45 kJ の発熱  
E. 5 kJ の吸熱      F. 20 kJ の吸熱      G. 30 kJ の吸熱      H. 45 kJ の吸熱

塩化ナトリウム NaCl と水酸化ナトリウム NaOH の結晶は、 $\text{Na}^+$ が  $\text{Cl}^-$ や  $\text{OH}^-$ と静電引力によって結合したイオン結晶である。

1 mol のイオン結晶中のイオン結合を切断し、互いに遠く引き離して静電引力を及ぼさない状態にするのに必要なエネルギーを格子エネルギーという。NaCl および NaOH の格子エネルギーは表 1 に示すように非常に大きく、これらの結晶中で陽イオンと陰イオンが強く結合していることがわかる。

表 1 格子エネルギー (25℃,  $1.0 \times 10^5 \text{ Pa}$ )

物質	[kJ/mol]
NaCl(固)	787
NaOH(固)	900



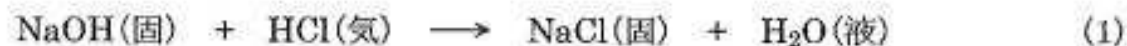
図

NaCl(固)から  $\text{Na}^+$ (気)と  $\text{Cl}^-$ (気)を得るために、図のように、まず NaCl(固)を Na(固)と  $\text{Cl}_2$ (気)に分解して、さらに気体状の Na 原子と Cl 原子とし、それらの原子からイオンを生成する過程を経たと仮定したとき、その全過程に要するエネルギーは NaCl の格子エネルギーと等しい。この関係を用いて、NaCl(固)の生成熱および格子エネルギー、Na(固)の昇華熱、 $\text{Cl}_2$ 分子の結合エネルギー、Na 原子のイオン化エネルギーから Cl 原子の ア を求めることができる。

NaClやNaOHの結晶は、水に入れると陽イオンと陰イオンに電離して溶解する。特にNaOHの結晶は空気中に放置するだけでも<sub>(a)</sub>水分を吸収して溶解する。イオン結晶の水への溶解は、例えばNaClでは、結晶表面の $\text{Na}^+$ に水分子の  原子が、 $\text{Cl}^-$ に水分子の  原子がそれぞれ引きつけられて生成する水和イオンが水中に拡散していくことで起こる。

イオン結晶が水に溶解するときの溶解熱は、1 mol のイオン結晶を構成する陽イオンと陰イオンがすべて水和イオンになるときに発生または吸収する熱である。一方、気体状態のイオンが水に溶解して水和イオンになるときの反応熱がイオンの水和熱に相当する。したがって、NaClとNaOHのそれぞれについて、格子エネルギーと溶解熱を用いて陽イオンと陰イオンの水和熱の合計量を求めることができ、それらを比較すると、 $\text{Cl}^-$ と $\text{OH}^-$ では  の方が<sub>(b)</sub>水和熱が大きいことがわかる。

また、NaOHと塩化水素HClの1 molずつが(1)のように反応するときの反応熱(25℃,  $1.0 \times 10^5$  Pa)は  kJである。



以上の各エネルギーの関係にもとづくと、(2)の反応熱(25℃,  $1.0 \times 10^5$  Pa)は  kJと求められる。

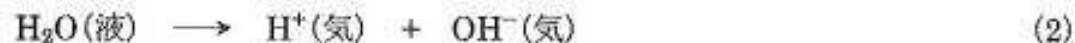


表2 各種エネルギー (25°C,  $1.0 \times 10^5$  Pa)

エネルギーの種類	物質	[kJ/mol]
生成熱	NaCl(固)	411
	NaOH(固)	425
	HCl(気)	92
	H <sub>2</sub> O(液)	286
溶解熱*	NaCl(固)	-4
	NaOH(固)	45
	HCl(気)	75
結合エネルギー	H-H	436
	H-Cl	432
	Cl-Cl	244
イオン化エネルギー	Na(気)	502
	H(気)	1318
昇華熱	Na(固)	107

\* 溶媒が水のときの値

必要ならば表1および表2の各値を用いよ。

問1  の名称を書け。また、Cl原子1 molあたりの  の値をkJ単位で求めよ。

問2 下線(a)の現象の名称を漢字2文字で書け。

問3  および  に適する元素記号を書け。問4  に入るイオンの名称を書け。また、下線(b)が生じる原因となる  の性質を1つ挙げて15字以内で書け。問5  の値を求めよ。問6  の値を求めよ。